

議長	副議長	局長	課長	副課長	課長補佐	係

委員会行政視察調査報告書

平成29年5月1日

三田市議会議長 様

議会運営委員会委員長 厚地 弘行

福田 秀章

美藤 和広

長尾 明憲

平野 管子

佐貫 尚子

随行者 議会事務局局長 寺田 昭裕

随行者 議会事務局議事総務課 係長 井筒 良和

本委員会が実施いたしました行政視察の結果を下記のとおり報告します。

- 1 実施日 平成29年4月25日（火）
- 2 視察先 篠山市 ・議会運営について
・議会IT化の取り組みについて
- 3 視察先対応者 篠山市：議会事務局
- 4 添付資料 (別紙のとおり)
- 5 調査結果の概要及び所見 (別紙のとおり)

議会運営委員会 視察（篠山市）

■視察参加議員

◎厚地弘行、福田秀章、美藤和広、長尾明憲、平野菅子、佐貫尚子

事務局随員

寺田昭裕、井筒良和

<篠山市出席者>

篠山市議会 ・ 渡辺拓道議長 ・ 足立義則議会運営委員会委員長

・ 隅田雅春議会運営委員会副委員長

議会事務局 ・ 福西保博課長 ・ 樋口寿広課長補佐

・ 中瀬文隆主事

■視察日時：平成29年4月25日（火）午前10時～12時

■視察事項

○議会運営について

◆議会運営に関する申し合わせ事項

・ 質問方式等については、一問一答方式又は一括質疑方式から質問者が任意に選択する。

→ 現状は、一問一答方式がほとんどである。

・ 一次質問は、議員が一括質問を行い、当局が一項目ごとに答弁を行う。二次質問以降は一問一答となる。

・ 質問回数は時間内であれば制限がない。

・ 発言場所は一次質問・答弁とも演壇、二次質問以降は自席で行う。

<質問時間、順序等>

◆代表質問

→ 質問のみ40分以内、多数会派順（同数の場合は提出順）

◆個人質問

→ 質問のみ30分以内、通告書提出順

◆総括質疑について

→ 質疑は同一議員につき、同一の議題について3回を超えることができない。

◆議会日程について

→ 前回定例会最終日の議会運営委員会において決定する。

★質問等

・ 質問時間の時間調整等はどのように行うのか？

→ タイマーで質問時間管理、議場の残時間表示を行う。いずれも事務局で対応。

・ 正副議長の個人質問は行っているのか？

→ 議長は申合せにより行っていないが、副議長は他の議員と同様に行っている。

・ 個人質問の順番は通告を出した順番のとおり、代表質問は毎回実施している。

・ 一般通告締切は議案の配付前であるが問題はないのか？

→ 調整の中で対応しているのでそれ程問題ではない。3月議会の場合は予算審議がある

ため先に出してもらっている。

・30分の質問時間の頃合いは？

→ 答弁の時間が読めないところもあるが、長くて1時間程度である。自分の出番が読みにくい点もある。1日最大7名までと決めている。

○議会IT化の取り組みについて

◆導入経緯

→ 篠山市議会基本条例施行(H24.4.1) → 先進地視察(千葉県流山市議会・三重県鳥羽市議会・神奈川県逗子市議会) → ICT研修会 → 篠山市議会における情報通信技術の活用を推進するための決議(H25.6.27) → 議員研修会(H25.11.15) を経て、市議会として、タブレット端末の活用、クラウド文書共有システムの導入検討・システムの検討、導入に必要な法改正・ルールづくり、システム導入費用の予算化 → 12月定例会で補正予算を計上、可決 → タブレット端末の配布、システム運用開始(H26.3月下旬)

◆導入の目的

- 効果的・効率的な議会運営
- 議員活動の充実(膨大な資料の携行、保管)
- ペーパーレス化

当初の大きな目的

◆タブレット端末の選定について

- ・ノートパソコンと比較して
 - ①長時間の使用に耐えうる(バッテリー面)
 - ②持ち歩きしやすい(重量面)
 - ③起動時間が短い
- ・通信費が発生しない、より安価かつ回線速度が速く等「wi-fiモデル」を採用
- ・リースよりも安価であることから、事務局で購入し、議員へ貸与する方式を採用。
 - 各議員は適切な管理義務を持つ。

◆クラウドシステムの選定について

- ・紙の配布資料をクラウド上で電子化し、端末機で閲覧する。
- ・専用サーバーと比較して、イニシャルコストが低額。
- ・契約会社がセキュリティ対策を行うため、情報管理の安全性を確保できる。
- ・東京インタープレイ(株)のクラウドシステムを採用。

◆経費

<タブレット端末購入費>

iPad (Wi-Fiモデル・16GB) × 19台 ⇒ 756,205円

<クラウド文書共有システム>

導入初期費用(初年度のみ) ⇒ 84,000円

利用料 (59,400/月 × 12ヶ月) ⇒ 712,800円 【ランニングコスト】

<その他>

市庁舎LAN改修工事(情報担当課対応) ⇒ 20万円程度

SideBooks(ビューアアプリ) ⇒ 無料

◆端末機の使用範囲について

各取り組み内容について、短期（～H26.3）・中期（～H28.3）・長期（H28.4～）に分けて使用範囲を広げていき、利用に関するルールや課題を整理していくやり方を取っている。

①情報伝達における使用

→ 電子化するデータは会議に要する資料や議会運営に関する文書

②情報収集における使用

→ 電子書籍等については今後のコスト面を含め検討課題

③会議における使用

→ 執行部との調整を含め環境整備を図り、最終的には本会議での使用範囲とする。

④その他（導入後のシステム並びに端末機の活用拡大検討）

→ 市民の会と議会のコミュニケーションツールとしての活用の可能性を研究

議員個々の議員活動報告

◆推進体制

- ・議会運営委員会において、課題整理、運用ルールの設計を行っている。
- ・ICT推進チーム（各会派から選出）でICTスキル向上に向けた研修の検討・実施を行っている。

◆導入効果・課題等

【効果】

- ・効果的・効率的な議会運営
- ・議員活動の充実
- ・ペーパーレス化による環境負荷低減
- ・各議員のICTスキル向上の契機

【課題】

- ・各会議等での活用展開
- ・議員間のICTスキルの格差解消など

[所見]

三田市議会で課題としている本会議での議案にたいする質疑(総括質疑)について、篠山市議会では市長提案のあと質疑をしている。それを可能としているのは通告制をとってないからである。議員も当局側も台本がなく事前の準備を深める必要がある。とても参考になる。

一般質問の通告は通告書だけでありヒアリングはしていない。ただ一般質問の締め切り日が早いため市の提案議案と重なるのではないかと心配するが、説明では事前に提案されそうな物はわかるし、もし重なれば質問をしないように促しているとのことである。

会期ごとに補正予算の特別委員会を設けて、分科会審査を行っている。分科会審査は3日間だが、4日目の予備日も現地調査などにも使われることが多いとの説明があった。また最終日の全体会では、分科会での審査の内容を受けて不十分な場合には、議員の意見を取りまとめ委員長が市長へ再度質疑を行い、その市長答弁を受けて全議員による討論と表決に入る。めずらしいやり方だと思うが、これは評判がいいとの説明であった。

本会議最終日には議会運営委員会で、次回の本会議の日程を決めているとのことである。三田市議会においては本会議開会の1か月か2か月前位に決まるが、各自の予定等を考えると早く日程を決めるべきであり、参考になる。

質問時間については、篠山の議員の質疑のみカウントする方法と三田のように質問と答弁を含む時間でカウントする方法があるが、篠山市議会では質問時間の予定を立てることが難しい。一日7名の質問と決めている。一日の終わる時間や昼食時間の計算ができない事の課題があり検討の必要性はあるという話しであった。しかし、議員の質疑のみカウントする場合には現在の三田市議会のように、時間制限による答弁カットをすることはないので、その利点は大きい。

タブレットの議会での導入については、実演をしていただいた。委員会通知、記者発表資料、緊急時の連絡などできるところから始めているのが良いのではないと思う。ICTに不慣れな議員でも段々と慣れてくるし、活用の範囲も広がっている。議案書、会議資料など紙による資料は大幅に減っていることや、事務局職員から議員への資料提供のための作業もなくなった。日程管理や、会派の情報、議員活動によるものなど利用範囲は益々広がっており、導入後のデメリットは感じないという話しであった。三田市議会においても導入すべきものと実感した。

費用について、リースよりも購入したほうが安かったということで全議員に無償貸与している。タブレット購入費用75万円、クラウド文書共有システム費71万円。庁舎LANの改善費用20万円以内。鳥羽市や丹波市議会など阪神間市議会でも導入が進んでいるようでもあり検討すべきと考える。導入方法や、費用については更に検討を深めたい。